

患者

さんと

R18
adult only

患者さんと先生

P A T I E N T & S C H O O L N U R S E

保健室の常連・病弱女子「患者さん」

自己肯定感の低い保健医「先生」

先生

創作男女×TL

a.m./gozen



患者 さんと 先生

a . m . / 御 膳

創作男女xTL









保健室の先生と
恋人になってから
数ヶ月

こうしてコッソリ
お家に通うことが
増えたのだけれど…

おじやま
します

ただいま

先生っ…
まだ玄関…っ

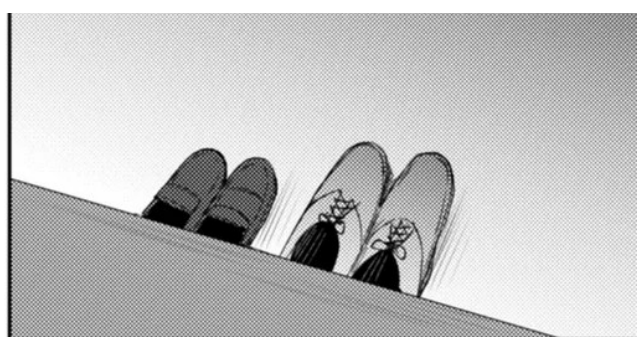
ん…っ

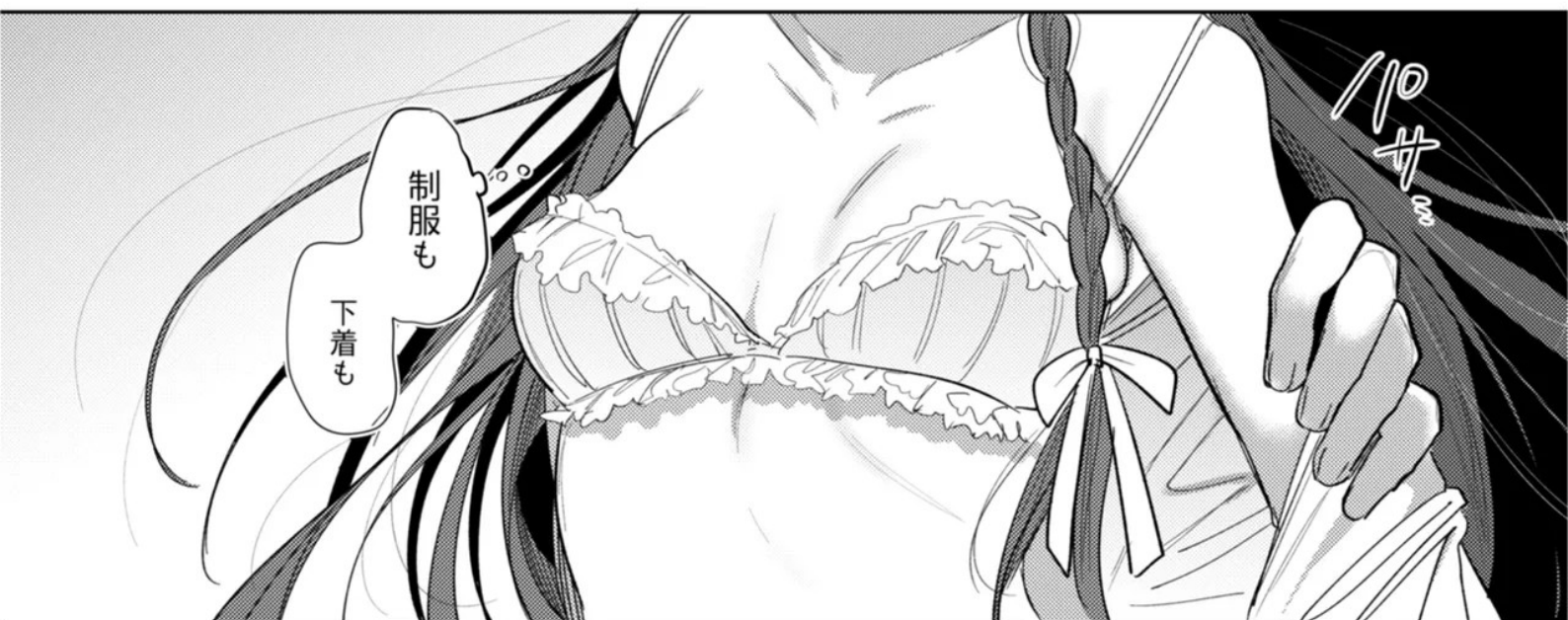
ごめん
ごめん

我慢できなく
てさあ…

ちゃんと
ベッドで
するから









つと
しまった



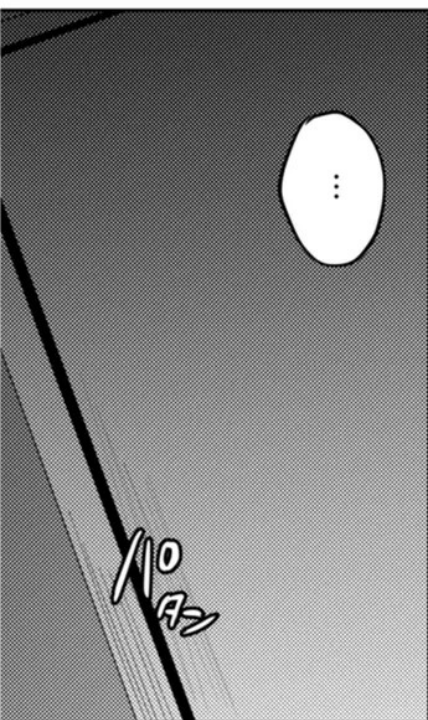
一応暖房
入れてるけど
寒くない？

指先つめたい

大丈夫
です

ふに

ふに



...

10分



段取り
悪かったな

ごめん
すぐ戻るね

え？

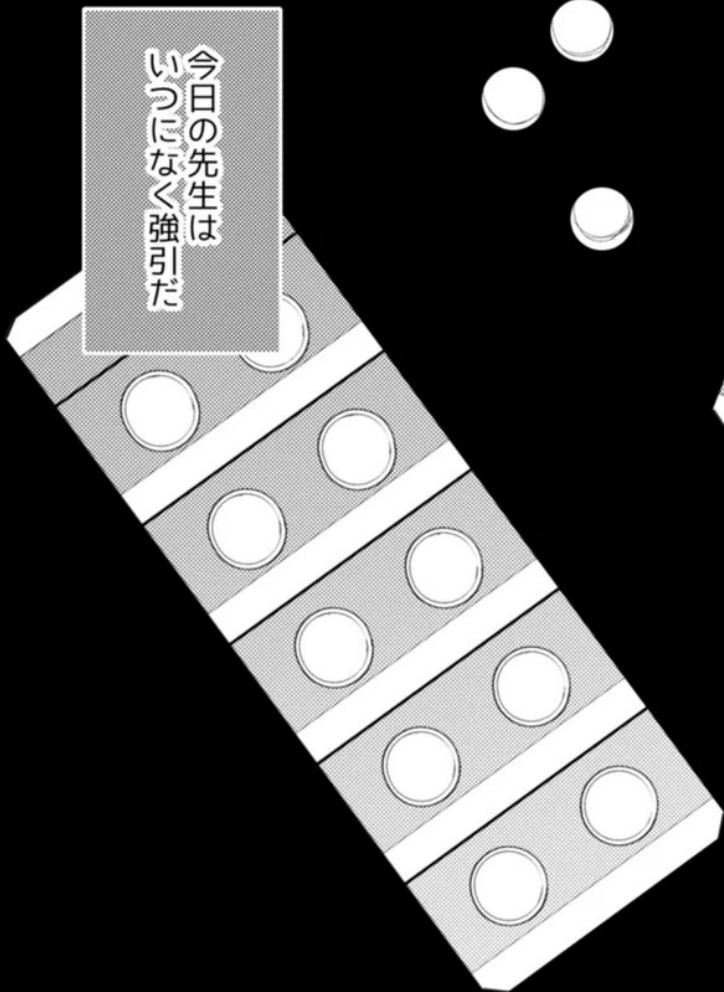


真っ暗で
何も見えない

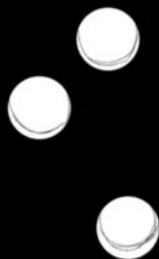
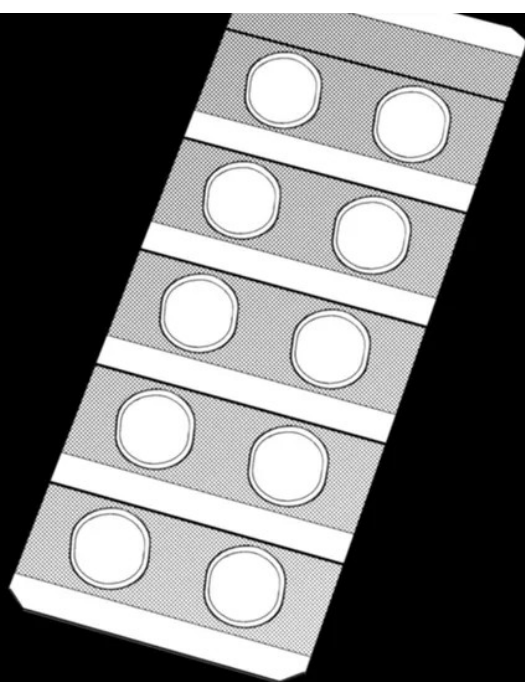
身動きも
封じられている

先生は何を
考えているん
だろう

私は
逃げないのに



今日の先生は
いつになく強引だ



私は
なんとなく

調子が悪いん
だらうな

と思った

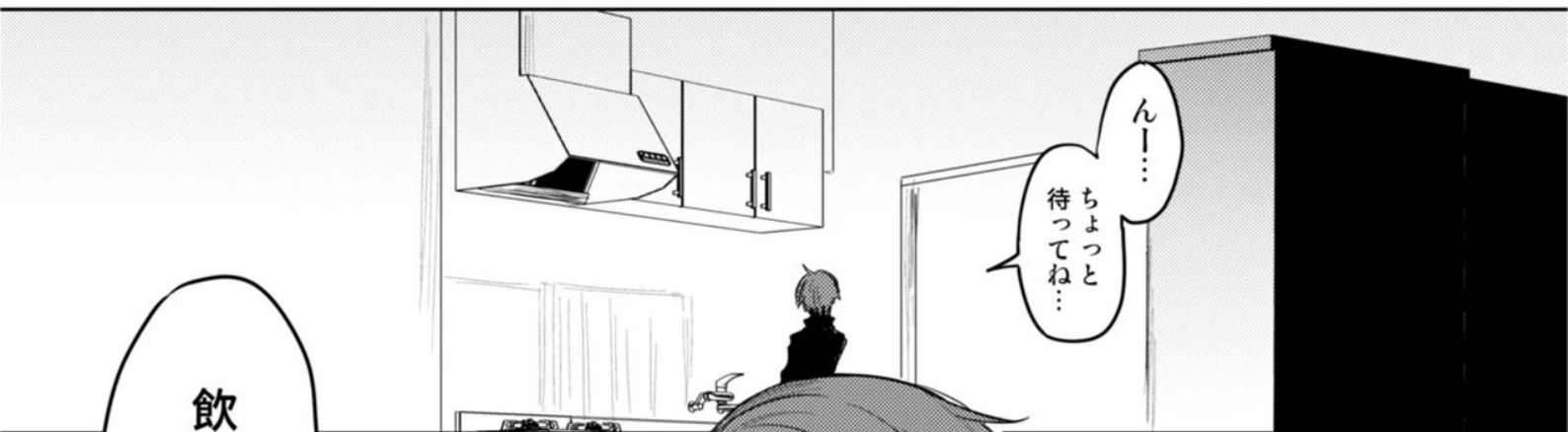
…先生

先生



まだ…
ですか

先生



ん！…
ちょっと
待ってね…

ん！…



飲み物

用意
してるから



おまたせ

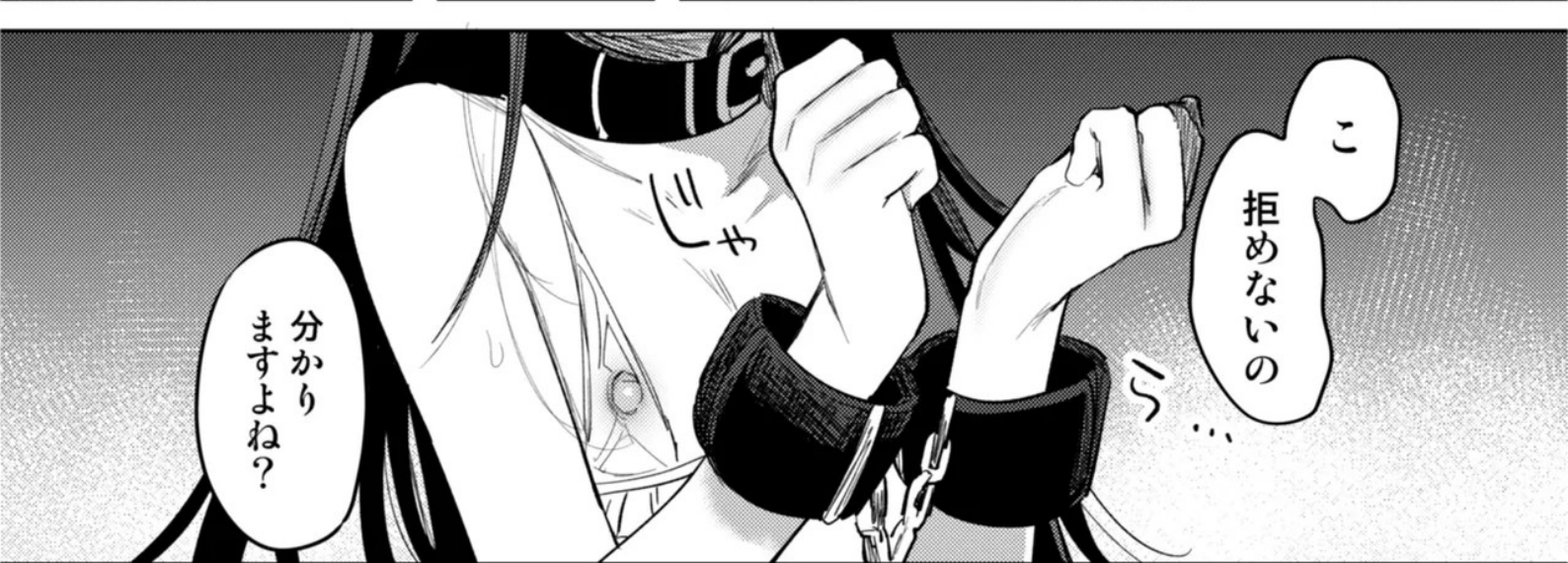
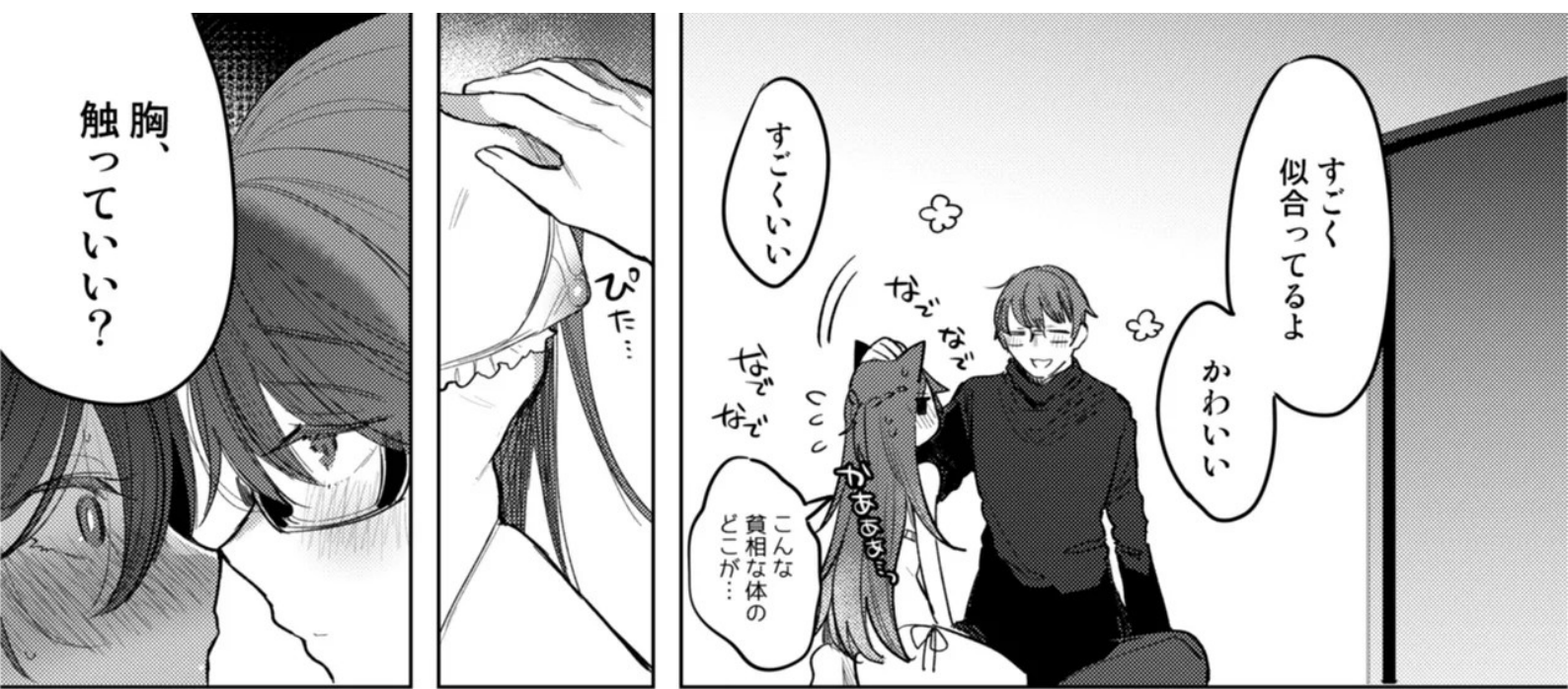
ハヤ

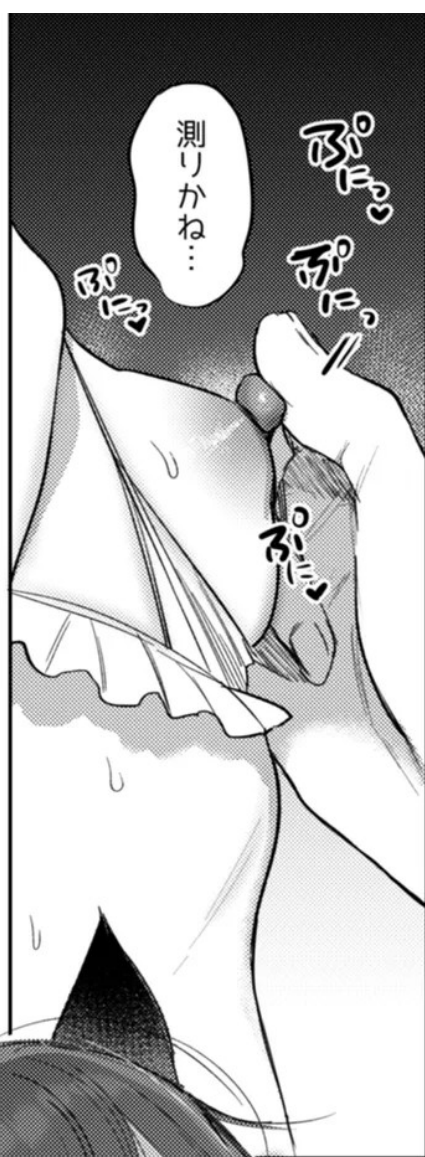


患者さん













私の好きなように

先生...っ

もう充分...っ
ですから...!!

全部
責めてやる



ずる...

ずる...ずる...



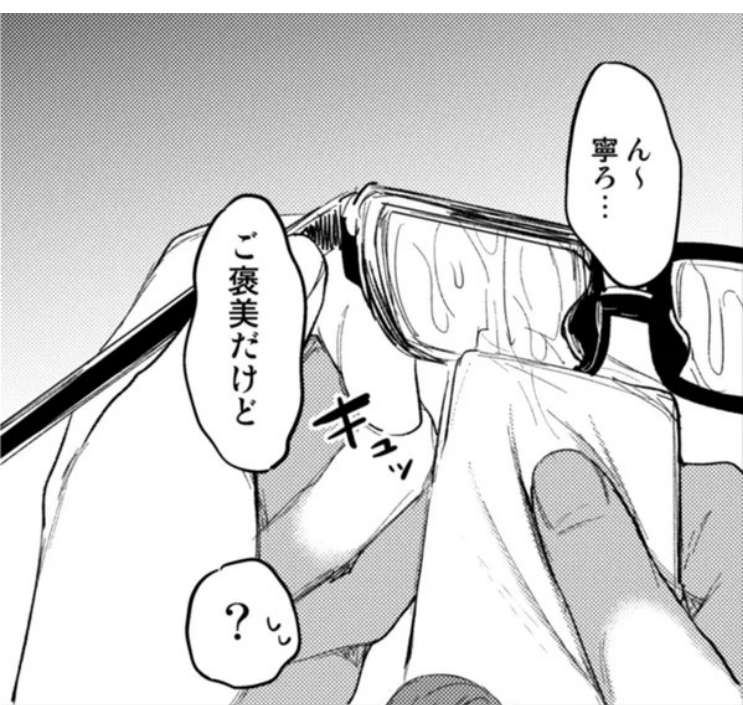
体のなか

素直じゃないなあ...

気持ちいい
くせに

全部
責めてやる





私への過剰な
気遣いは

単純な
優しさから
じゃない

まだ
続けるなら

カサ

ガラッ

患者さんが
僕に着けて

自分から

入れて
ほしいな...

ミミ...

私から
自発的に

先生
「自分を
求めてほしい」
という

ひどく歪んだ
承認欲求

なんて...



私は

分かり
ました

だから

ぎゅっ...



不器用な
先生が—

好き

…っ



先生が
私をかわいいと
思うように

私も先生を
かわいいと
思ってる

先生は
幼くて…

かわいい

患者さんは
かわいいなあ

はは、
本当



今
私の手は

アッ

は、い
は、い

先生の手に
握るために

あります
から…

それでも
同調は

しない

先生を
傷つけたり
なんかしません

おん
おん

おん
おん

おん

おん

おん



うれしい

うれしい
なあ…

ああ…
かわいい

本当に
不器用で
不完全で…

幼い

こんな私に
自分の弱さを
さらけ出して
くれている

患者さん

こんなにも
脆くて

ずっと僕の
僕の手を
握っていて

ずっと僕の
そばにいて

はい…

弱い
先生が

先生の
そばに

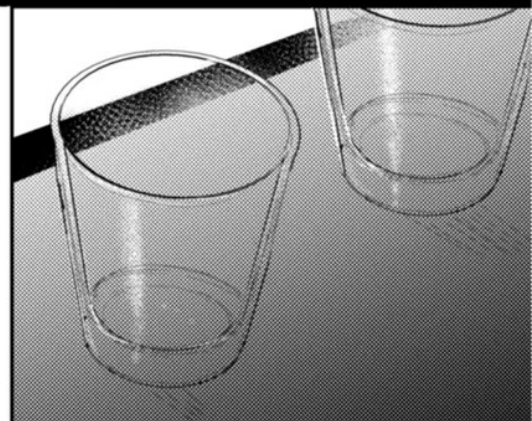
ずっと…
いますよ

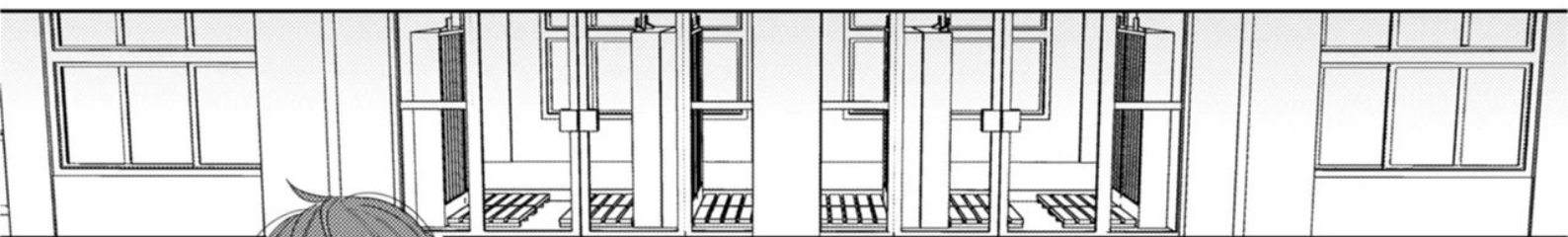
私は
どうしよう
もなく—





これは、どうしようもない共依存







キャラ説明

患者さん
保健室常連の健康不良児
「患者さん」は先生の付けたあだ名
押しに弱い、理解ある彼女

なんで
猫耳に水着…？

なつこ

先生
三十路の保健室の先生
メンタル極悪ハードリストカッター
基本的に他人には優しい





はじめて女性向けTL本を出しました。
女性向けって言うていいのか分からない内容になってしまった。
10年くらい頭の中で動かしていたキャラ達を動かして楽しかったです。
元は乙女向けノベルゲームを作ろうとしていたんですよね。
フリーノベルゲー全盛期に。

来年くらいにこの二人で長めの漫画を描くつもりです。
今のところネームが150Pくらいまで膨れ上がってる…。
上の絵は表紙に使う予定。

発行 a.m.

発行人 御膳

2023年12月 COMITIA146 初版発行

nakahashimizuki@gmail.com

twitter(X)@am_is_gozen

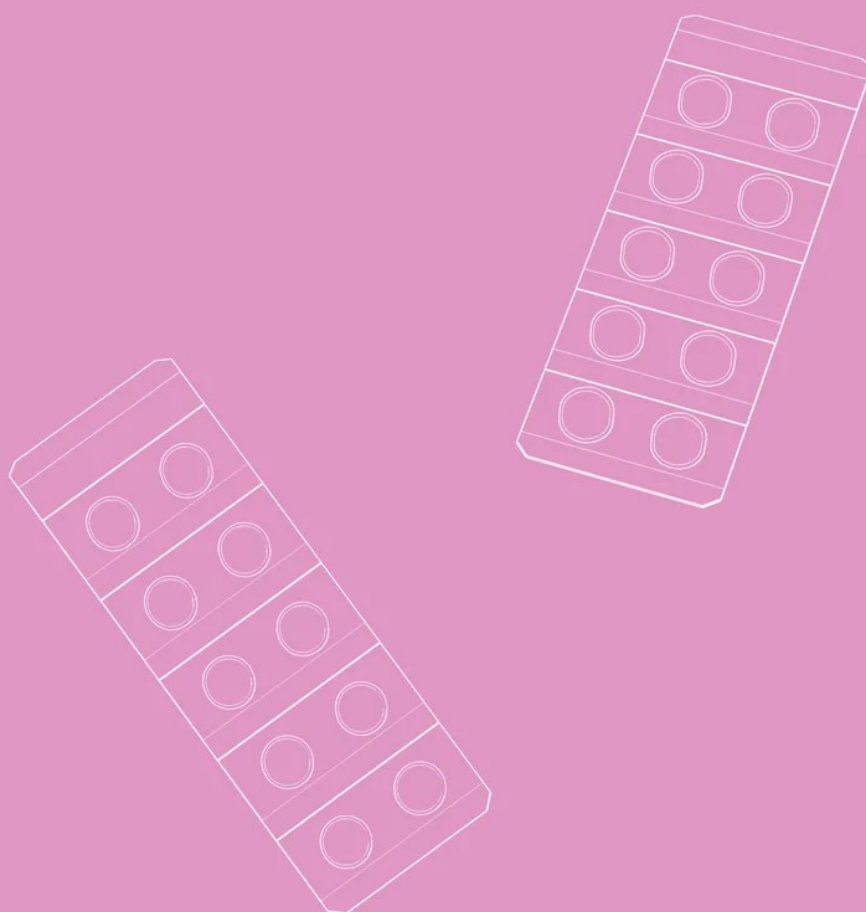
pixiv 3896141

患者^{さん}と先生



a . m . / 御 膳

2023/12/03 COMITIA146

















家電量販店

新しい
ノートパソコン
欲しいな

タブレットも
使い古したから
そろそろ
買い替えたい

魔法のカード

ホームセンター

絶対に使わない
ネジとか工具とか
見ると

なんか
デジション
上がらない?

ホーム
センター

ホーム
センター
の
お
も
て
な
し





13:15

いっけー

いっけー

いっけー

いっけー

いっけー



石流先生

シャッター
閉じかけて
ますよ

あー

あー
ふあー

いっけー

気を付けmmmm_



保健だより
今日までなん
よろしくお願
いしますね





ていうか もう寝たい





2012.10.27

ここは
なかなか
治らないですねえ



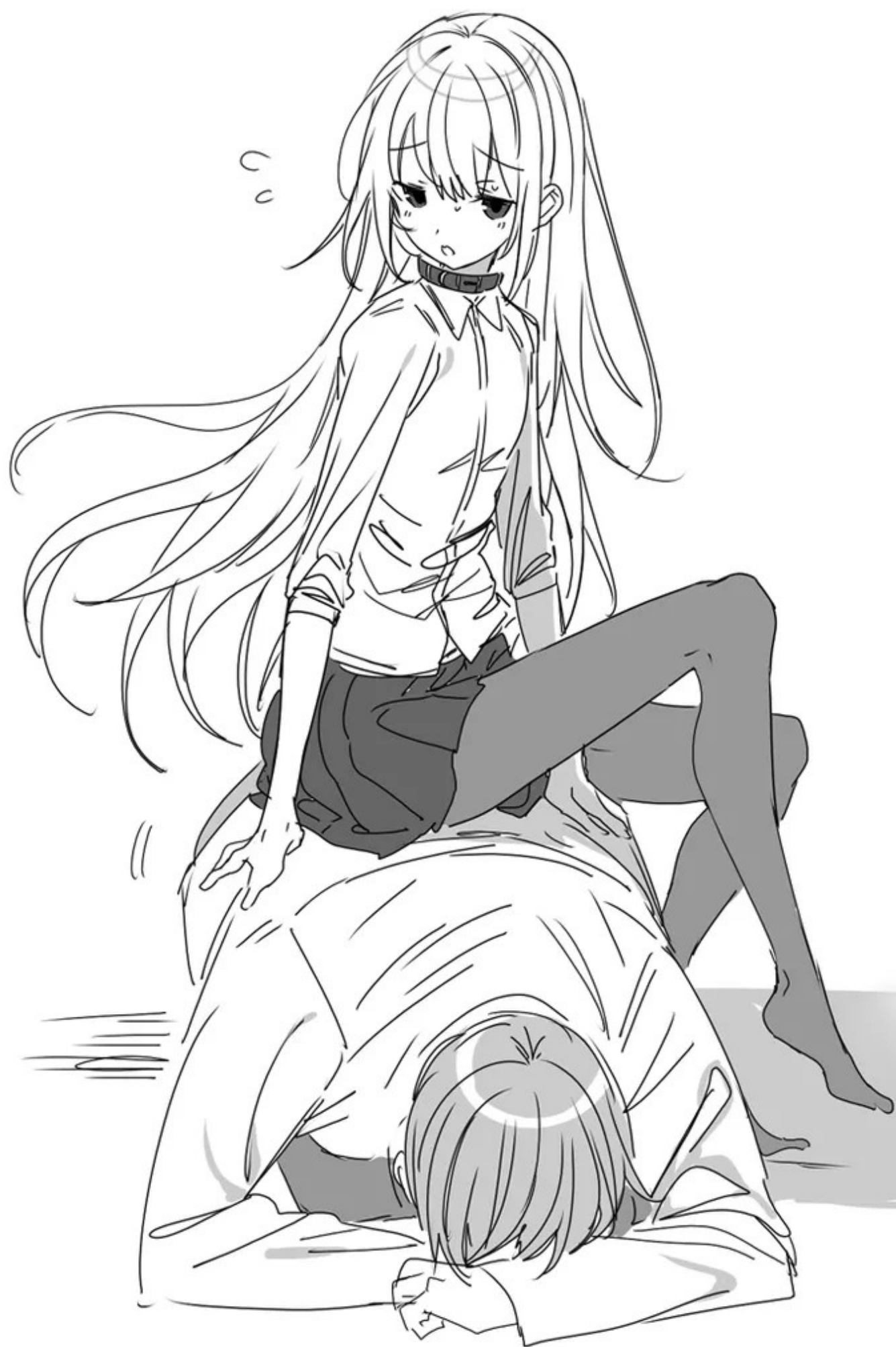


30 min

カ
ア
ア
ミ



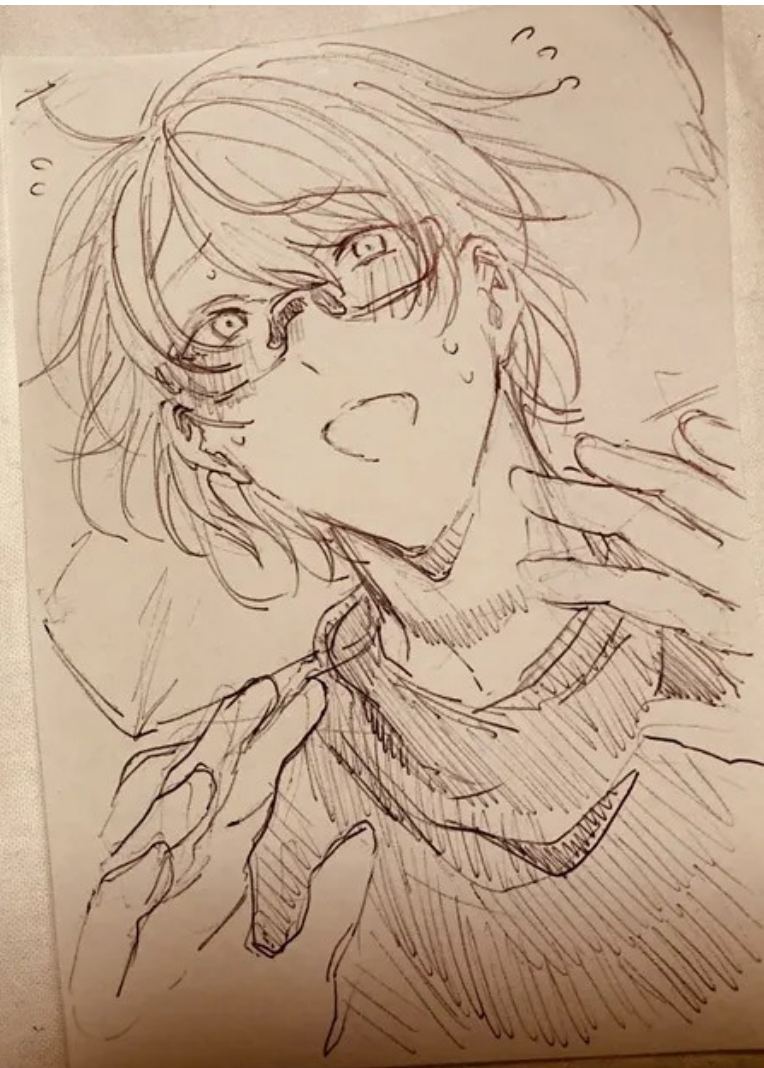
見た目
犯罪的
じゃあ...





ㄥ(^ ㄟ ^) ㄣ





好方
的に
は...

は

12
1
3

25th July 1941

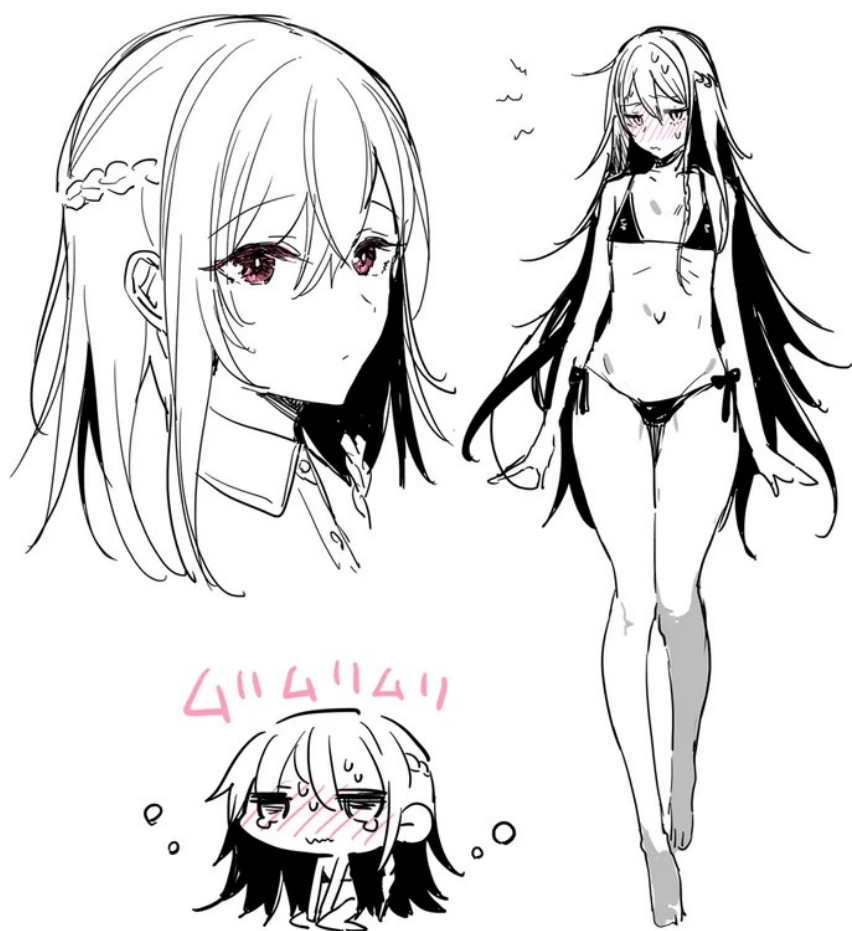
自勝年

1

でもさ、

世に
 僕から
 思いつく

す
く
と
す
る
し
て















♡

きんぎょ
ちゃん

きんぎょ

♡

♡

♡

♡

きんぎょ

♡





カフェイン
おいしい



先生つて

オナニ
自慰するん
ですか？

待ッーっ!!!

失礼します

ちよちよ

チヤイム
鳴っちゃった

! ?
! ? ?
!! ?







あ○ばって
250円くらい
安いタバコ
だったのに

今500円
なんだよ…

僕
こわいよ…

×ビースも

昔400円くらい

だったのや…

禁煙しましよ…
なんて
野暮かな

2020

7A



10A



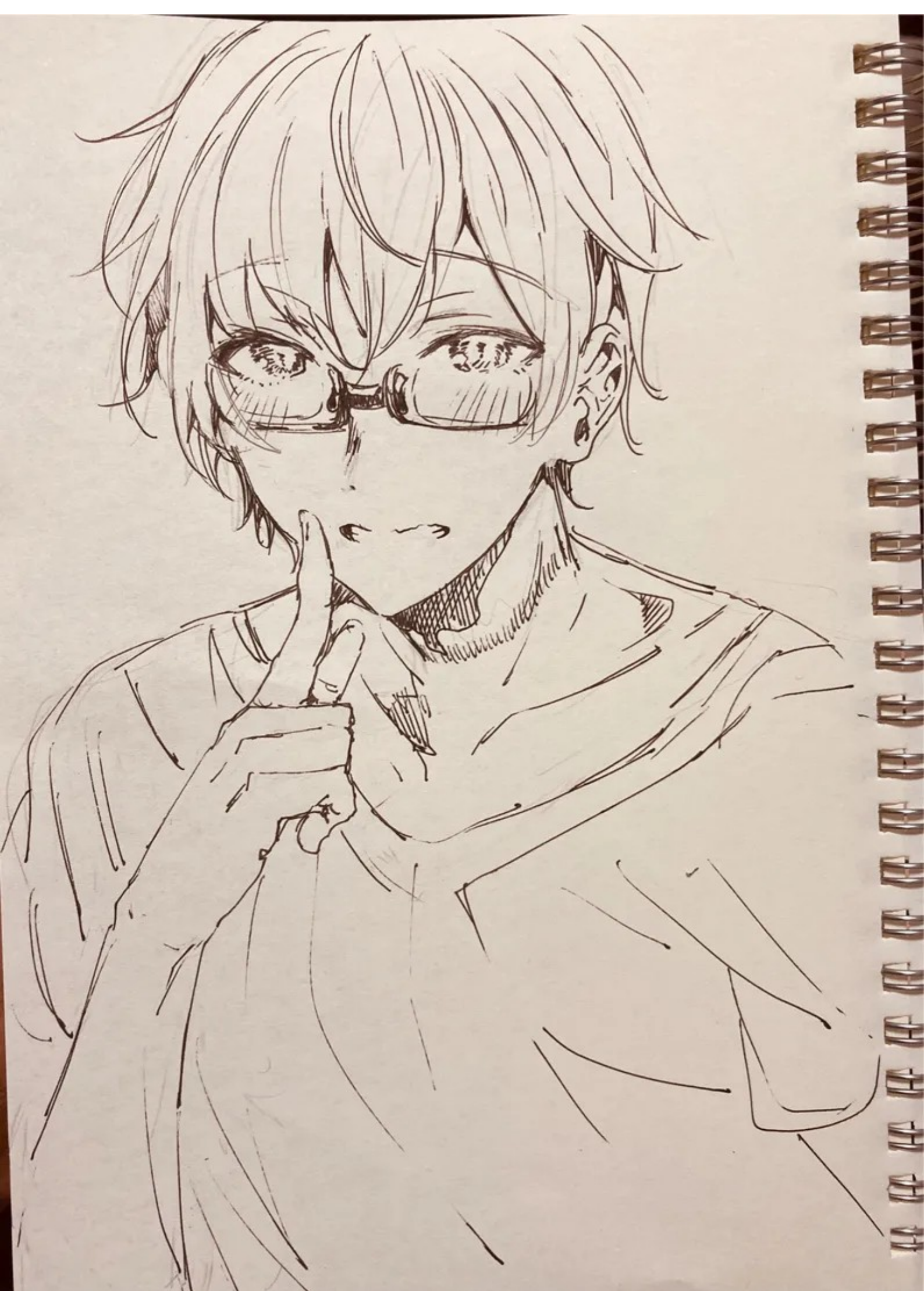
20210804





煙
草
の
味
は
何
だ
か
し
ら
な
い

おしふり



ハイハイハイハイ
死ねる♡



ソメガネソ白衣
ソソオートルネツク
エラストラホイツパキ代



120P

+EX

infection

自己肯定感

の

低い私

MIKOKUTSUKAN
NO NIKU
KASHITO SENSEI

先生

自傷癖のある
保健室の先生との
甘い共依存

——先生からの依存と執着が、
私の自己肯定感になっていった。

a.m./御膳



メンヘラヤンデレ弱々保健医 x 病弱貧乳敬語女子

P A T I E N T & S C R I O N U

ひどく歪んだ
承認欲求

自責思考の
オンパレード

患者 さんと 先生

40p
+ex

R18
adult only

a . m . / 御膳

保健室の常連・病弱女子「患者さん」

自己肯定感の低い保健医「先生」



保健室の常連・病弱女子

患者さん

自己肯定感の低い保健医

先生 (30)



僕ん家
来る？

…で
今日
どうする？

ちょっとワケアリな
保健室の先生×病弱女子



保健室で休んでいたら
いつの間にか放課後に



ああ…
はい…



……ん
もどき

そろそ
起きた
ないん

そんな時、
恋人である先生から
お家に誘われー



なんだか不穏な
雰囲気…

猫耳×首輪×マイクロビキニ!?



保健室の先生と
恋人になってから
数ヶ月

こうしてコッソリ
お家に通うことが
増えたのだけれど…

おじやま
します

ただいま

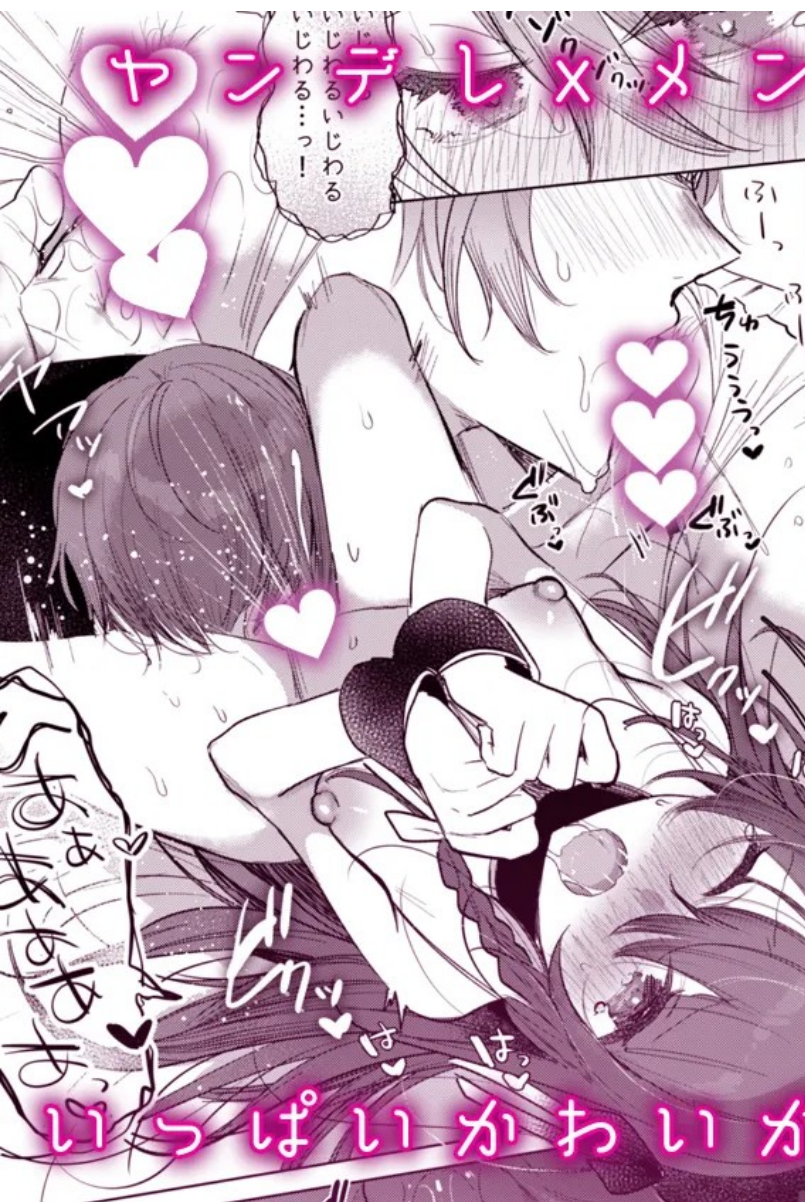
先生っ…
まだ玄関…っ

ん…っ

ごめん
ごめん

我慢できな
てな…











先生のことをちゃんと認識したのは、この学校の保健室をはじめて使った時ではなかった。何度か保健室を使ってようやく首にぶら下がっている名札を見たのだ。（風流な名前だ、何て読むんだろう。まあでもわざわざ名前で呼ばなくても「先生」で伝わるし…）

「先生、これ利用届です」

先生は一枚の紙を受け取るとサインを書き判を押して私に返した。

「担任の先生から聞いたんだけど何度か入院してて体弱いんだよね、君」

「…はい。これから何度もお世話になると思います。

よろしく願います」

「うん、一緒に3年間頑張ろうね」

頑張る？何を？体調が悪いのは頑張りではどうにもならないのに。

「休み休みでもちゃんとして卒業した子いるからさ、君もきつと卒業できるよ。僕、応援してるよ」

ささくれ立っていた心が溶けた瞬間に、保健室の先生を人として、「先生」として認識した。

「先生の苗字、何て読むんですか？」

「さーて何て読むでしょう？」

保健室の先生



「患者さんは大判焼き、餡子とカスタードどつちが好き〜?」

「大判焼きとは今川焼のことですか?」

「えっ」

「今川焼……」

「お、大判焼きじゃなくて?」

「アレに色々名称があるのは知っていました
が、まさか先生と派閥が分かれるとは」

「な、名前なんてどうだっていいよ! 中身
が大事だよ!」

「私はカスタード派ですが、先生は?」

「餡子〜!!」

例のアレの餡子とカスタードを一つずつ買い、
半分に割って分けっこした。おいしかったで
す。

ベイクドモチョチョコ



僕の部屋にある本が本棚に収納されことなく床に積まれている光景を見た患者さんはため息をついた。

「ほ、本には積んでるだけで効果があるんだよ。スピリチュアルパワー的な！」

「……先生、積み本は罪本、積読は罪毒ですよやけにうまいことを言う。」

「そういう患者さんは積まないの？ 本」

「買ったらすぐ読んでしまいますね」

「僕の積んでる本消化してほし〜」

「そうしたいのは山々ですが…先生が積んでる本、専門的で難しくて読めないんですよ」

「じゃあ僕が読み聞かせてあげよう！」

「絵本じゃないんですから…」

積んでいる中で一番絵本っぽいところである本のNewtonを引っ張り、懇切丁寧に読み聞かせをしようとしたが止められた。

「それは絵本じゃないです」

「面白いけどねえ」

「じゃあ積まないでください…」

積読



積読2

「要らない本があったら引き取ります」
僕の本棚の惨状を見かねた患者さんがそう申し出てくれたので何冊か引き抜いて手渡す。

「ほぼ新品じゃないですか」

「一回読めば大体覚えるからね。学術書は仕事でも使うから別だけど、小説は展開を一度覚えると読まなくなるな。完全に忘れてから読まないとダメだ」

「私は好きなシーンを繰り返し読んでしまいますね」

「へー、どういうシーン？」

「……秘密です」

「あ、えっちなやつか……むあああ」

頬をむにむにされた。痛くない、寧ろ幸せな感触だ。

「え、えっちなシーンもありますけどそこじゃないです！」

「患者さんもお年頃だねえ……」
「もっつつっ！」



「先生の休日」

読書、喫煙、飲酒。その三つの要素で構成されるもの、それは僕の休日である。窓を開けてバルコニーへ出て煙をくゆらせながら景色を眺める。

（どうしようもない程曇天だね〜）

晴れていれば収納からアウトドアチェアを引っ張ってきてここで気が済むまでぼんやりしていてもいいのだけれど、あいにくの天候。諦めて部屋に戻り、冷蔵庫から酒の缶を取り出しプルタブに指をかけた…が、止めた。

（なーんもすることない、ほんとに）

今日は患者さんの模試だ。邪魔をするわけにいかないから今週は平日もなるべく距離を置いていたのだが。

（今まで休日何してたっけ僕）

虚無感がひどい。家に置いてある気を紛らわせるものに片っ端から手をつけてしまいそうで怖い。その中でも一番毒性の低い、積んである本を崩すことにした。

「無理……しなくても、いいよ？」

苦い、生臭い。美味しいものではないのは確かだけれど、先生が喜んでくれるのであれば進んで行ってもいいかな。私はそれを垂らしてしまわないよう慎重に啜り、飲み込む。

「タンパク質って……んっ……♡ ごくっ……大事ですよね」
「もつといい摂取方法あると思うよ、卵とか……」

先生は真面目に喋っているけれど上気している頬はごまかせない。攻めると照れるなんて、かわいい。

「ぐぶ……っ……♡ んっふ……ちゅうううう……」

全てを吸い出すように喉奥まで咥え口を窄める。どんどんと上がってきて口の中に苦みを与えた。それも余すことなく飲み込み、仕上げて先をひと舐めする。

「罪悪感やば……」

「……っんんっ……♡ ふ……♡ ごくっ……それは、まあ……分からなくてもいいですね。自分のことながら」

「この罪悪感、どうやって帳尻を合わせればいいんだろうね……」

「……キスします？」

「それはご勘弁いただきたいな……」

おくち



もふもふ。先生の髪の毛は柔らかくてワックスを付けていないから触り心地がいい。手櫛でとかしても引っかからないし、良いトリートメントを使っているのだろうか。

「な〜に〜、僕のこと犬かなんかだと思ってる〜?」

「頭をなでなでして癒されること自体は否定しません」

「ふ〜ん…」

保健室の事務机に突っ伏して休憩を取っている先生はまた目を閉じる。

「歳下の女の子に可愛がられる僕〜…」

「可愛がるのに年齢関係なくないです?」

「ん〜、まあそれもそうか。僕の世代は年功序列制が色濃いからさ〜。患者さんの世代はそういうの薄いもんね」

あまり意識したことは無かったけれど、何かを気にすることなく先生の頭を撫でられるのは私の特権なのかも。

頭を撫でられる先生



「患者さんの頭は小さいな〜」

「ば、馬鹿にしてません？」

「だって僕の片手でほぼ包めるよ」

頭をわしわしと無造作に撫でられる。でもなんだか心地よくて、手が暖かくてちよつとだけドキドキする。ヘルメットとかフードとか被ってる時って安心するけど、そんな感じ。

「いい子いい子」

保健室で休んでばかりの子なんて本当にいい子なのだろうか。

「もつともつとお利口になるんですよ」

まるでお母さんのようだ。私の母はこんな感じではないけれど。

「…勉強頑張ります」

「君なら志望校余裕でしょ」

「そうだといいんですけどね…がんばろ…」

「せめて僕が心穏やかにしてあげよう」

胃がキリキリするほどのカリキュラムを与えられている身になででは効果抜群だった。

頭を撫でられる患者さん



先生が紙に何か記入している。お仕事なので当たり前だが、学校絡みのプリントだったようなので内容を詳しく見ないように先生の書き文字だけを目で追う。サラサラとリズム良く筆記されていく。文字の並びが斜めになることなく綺麗に水平を保っている…綺麗だ。「教職に就いている人って何で字が綺麗なんですか?」「僕も昔同じこと思ったなあ。書いてる量が違うからじゃないのかな?」

毎日のように黒板に向かって字を書いていれば必然的に綺麗にもなるか。

「先生も字綺麗ですよ。私は癖字なので…見習いたいです」

ボールペンの動きがぴたりと止まり、用紙の全面を手で覆い隠された。

「え、綺麗!? 習字習ってたからかな。まあ昔取った杵柄でしかないけどね」

「隠さないでくださいよ。私、先生の字好きです」

「え……、えっちなな……」

「…その照れ隠しは意味分かりません」

字



「先生、お茶を取りたいので開けてもいいですか」

患者さんは冷蔵庫の前でおずおずと僕に尋ねた。僕はソファにもたれていた体を起こしてキッチンへと向かう。

「いいよ。ていうかいちいち許可取らなくてもいいのに」

患者さんが開ける前に僕が開けた。大して何も入っていない、調味料と飲み物とお酒がこじんまりと居座っている冷蔵庫。他は患者さんのおやつにと買い置きしていたチョコレートが置いてある程度で、見られて恥ずかしいものは何もない。

「よ、よそのうちですから、確認取らずに開けるのもちよっと…」

「ふーっふん…よそのうち、ねえ…」
少しムツとしてしまった。

「確かに僕の家は君の家ではないからねえ」

「せ、先生？」

「君の家になれないもんね、僕の家は」

「そ、そういうことじゃないですよっ」

いやそりゃね。うん、頭では分かってはいるんですけどね。なんか気を許されていないみたいで嫌じゃん。

冷蔵庫



三十路に差し掛かり、友人知人親戚同僚がポツポツと結婚してゆく中、独身の自分に向かって「焦らないのか」と聞かれて「全く焦らない」と答えられる人間はどれだけいるのだろうか。

昔何人かと付き合った経験はあるが、あれは完全に若気の至り。全員名前も顔もよく覚えていない。僕の上辺と僕の実家だけを判断してあわよくば、みたいな強欲さが透けていてげんなりしたことだけは覚えている。世間体や性欲解消のために彼女なんて作らなくてもいい、というか要らない。そう思って幾星霜、今では結婚適齢期の立派なおじさんになっている僕なのであった。

「いやゝ無理無理、無理でしょ」

自分の傷だらけの腕を眺める。これで、誰が、結婚したいと？ 僕だって誰でもいいわけではない。結婚するなら好きな人とがいいさ。

バルコニーに出てタバコに火をつけ外を眺める。口から吐いた煙が街並みをベールのように覆っていくが、風が吹いてあっという間に掻き消えた。

「好きな人は、触れてはいけない人だからなあ」

結婚願望_過去

若い時に付き合う理由なんて大概は「承認欲求」と「性欲処理」だろう？　こと世間で言われている恋愛というのは気持ちのいい、耳触りのいい言葉でオブラートに包まれているものだが実のところ蓋を開けてみればそんなものだ。相手を深く知ろうだとか理解しようだとかなんてこれっぽっちも思っていない、お互いの理想像を押し付け合ってるだけにすぎないちゃちなままごとである。

僕自身「一人で行う」ことは別に嫌ではなかったし、お金を払ってまで誰かとしていた行為でもなかった。というか、この体を誰にでも見せたいわけではない。気心の知れた人ですら厳しいというのに。

自宅用のノートパソコンを開き、シークレットブラウザでネットの海を漂っている最中に出会った平面の妖艶な女性。それをじっと眺めて、パソコンを閉じた。二十代と比べて欲が落ちたものだな、と思う。服用している薬も関係しているのかもしれないが。

好きでもなければ好かれてもいない、よく知らない人を抱く想像をしても僕は何も感じなくなっていた。

処理_過去

「髪の毛、絡まってますよ」

「え、嘘ほんと？」

スカートのポケットに入れていた折りたたみコームを取り出し、先生の後頭部の髪にそっと通す。柔らかい髪質だったのですんなりと整えることができた。最後に手櫛で仕上げをし、なんとなく頭を撫でて手を離した。先生は特に気にした様子もなく、後ろを振り返り私に微笑みかけた。

「昼休み中にベッドで仮眠取ってたのがバレる」

「何やってるんですか…」

勤務中にこっそりタバコを吸ったり、生徒にお菓子をあげたり、厳しい先生に見つかったら怒られそうなことをしているから勝手にヒヤヒヤしてしまう。私にとっては、「良い保健室の先生」だと思っているけれど。

「悪い子だ、僕は」

そう言って先生は私を撫でた。もしかしてさっき撫でたのバレてる？

「君はいい子だね」



「先生の本棚って漫画あんまり入ってないんですね」
「あー、昔はそれなりに読んでたんだけどね。これも対象年齢って言うのかな、段々キャラクターに共感できなくなっちゃって」

先生は本棚の一面にあった一冊の漫画本を引き抜き、それをパラパラとめくる。

「大人になるにつれて興味が薄れていくってこういうことなのかと実感したけどさ、なんかさみしいものだよね。夢中で読んでた時期もあったんだけど。今は実用的なものだとか仕事に使うものだとかがメインになっちゃった」

「あれ、でもポツポツ一巻だけ買ってますんか？」

自分の記憶の限りでは十数巻出ているはずの漫画の一巻だけがひっそりと並んでいた。読んでみて合わなかったのかな？ そう思ったのだが。

「保健室の先生として生徒とのコミュニケーションは円滑にしたいからさ、勉強として読んでる。あ、でもこれは面白かったから映画まで見たな」

そう言って一冊本を抜き出し私に手渡した。先生、結構真面目だ。

「先生って結構『保健室の先生』してますよね」

「これでもちゃーんと働いてるんだよ僕は。ほめてほめて」

本棚_漫画本



「今日はやけにボタンが多いね」

「え？ あ、ああ……！」

言われてみれば確かにそうだ。今日着ていた服は襟から裾までビッシリと留められているフロントボタンワンピース。部屋に「お呼ばれ」しているというのに空気が読めていないにも程がある。

「これ全部外していい？」

「は、はい！どうぞ！」

先生は神妙な顔で一つ一つボタンを外していく。これではまるで母親に支度をしてもらっている保育園児のようだ。

「自分で外しましょうか？」

「ううん、これはこれで燃えるから」

……言っている意味がよく分からないけれど、先生が気にしていないのならよかった。

ボタン



(起きちゃった……)

隣に寝ていた先生を起こさないよう、そっとベッドから抜け出して用を済ませる。喉が渴いたので音を立てないようゆっくりと冷蔵庫の扉を開けてペットボトルのお茶を取り出した。冷たいお茶が私の喉、胃を伝ってお腹に流れていく感覚で、ぼんやりとした頭が徐々にさめていく。

(……………)

お茶を持っていない方の手でお腹をさする。つい数時間前には先生が「いた」場所だ。痛みこそないが、生々しい圧迫感のある感触は今でも鮮明に思い出せる。……ただ思い返しているだけなのに下腹部が疼いてくるなんて、私の想像力はなんて豊かなのだろうか。

(もう一度寝よう)

大人しくベッドに戻って布団にくるまる。先生の穏やかな優しい寝顔を見ていたら段々と眠気が強まり、気が付いた時には深い眠りに落ちていた。

深夜











自己肯定感の
低い

女子高生は、
自己肯定感の低い

R18

4人の

身美人



あだ名

患者さん

本名 笹五位 月子
15歳/151cm

保健室の常連。虚弱体質。

幼い頃から病を患っていて
何度も長期入院している。

勉強は得意で比較的優秀だが
出席日数が足りず四苦八苦。

食が細く、よく吐く。

歳の離れた姉（教師）がいる。

好き 本 消毒液の匂い
嫌い 騒がしい人

保健室のベッドで
横になってリボンを外した後
付け直さずのを忘れがち

友人関係が希薄。
唯一、保健室の先生だけが
家族外での関わり。

月子にあだ名を付けたのは
保健室の先生。

読書家でより大人びた
穏やかな性格。
大人とのコミュニケーションは
上手くいくが同年代とは
波長が合わずギクシャクしがち。

とても流されやすいタイプ。

どことなく
自信が無さげ

髪型はもみの木
イメージ



下に両側から
広がっていく感じ

左右に編み込み
あります

左右の三つ編みを
後頭部の中央で
束ねています



露出度の高いものを
着せられる図

切れ長、ツリ目。

ハイライト控えめで
あまり目に生気が
無い感じです。

あばらが浮き出ている
程度の細さ

膝が隠れる程度の
スカート丈。
肌の露出を好まないため、
スカートは標準より
長いものを使用している。







先生

30歳/176cm

保健室の先生。
優しく人懐っこい雰囲気
で女生徒の間で密かに人気がある。
間延びした喋り方をする。

二面性が激しく、柔和な雰囲気
に反して心身ズタボロ。

児童養護施設出身。
血の繋がらない兄がいる。
兄の息子である甥に滅法甘い。

すぐへらへらする。

好き タバコ 日本酒 本 兄
嫌い 甘いもの 自分

猫っ毛で
柔らかい髪質。

すぐごういう顔になる

寝起きが悪ければ
寝付きも悪い
気圧にも弱い

年中白衣+タートルネック。
なお、暑がりである。

アソビなもののやゲームが好きで
ややオタク気質。
だが、自分の好まれない(と本人が思っている)
性質を積極的に表に出さない。

イカでは
リッター4K使い。

首 縄の痣、痕
右腕 痣 根性焼き
左腕 リストカット